

統計に見る福島の教育

教員の研修参加状況について

この資料は、過去五年間の、福島県教育センター主催による研修状況を、小学校・中学校・高等学校別、講座別にまとめたものである。

一、研修参加教員数について

研修率（表2・表3）は、五年間の研修参加延べ数の、五十一年度教員数（表1）に対する百分率である。研修に参加してこの期間に退職した者、一人で二度以上参加している者もあるので、実際の研修率は、この数字よりやや下まわる。

中学校の研修率が高いのに対して、小学校・高等学校の研修率は低く、ほぼ半数の教員ははまだ研修の機会がない。

表1 昭和51年度教員数
(校長を除く)

学校種別	教員数 (人)
小学校	7,934
中学校	4,946
高等学校	4,092

(51.5.1調べ)

二、講座別研修状況について

小学校の講座別研修率（表4-1）

表2 研修参加教員数

(単位：人)

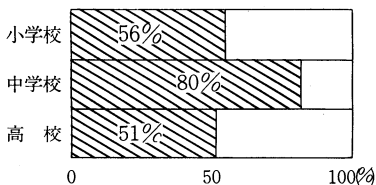
学校種別 \ 年度	46	47	48	49	50	計
小学校	695	747	972	1,032	1,019	4,465
中学校	760	771	927	832	675	3,965
高等学校	474	431	425	435	339	2,104
計	1,929	1,949	2,324	2,299	2,033	10,534

は、五年間の参加延べ数の、五十一年度の教員数（表1）に対する百分率である。これによって、各講座とも、研修率は極めて少ないことがわかる。

中学校では、五年間の参加延べ数の最も多いものは英語で、ついで、技家（男）、美術、音楽の順になっている。

高等学校では、英語が最も多く、ついで、情報処理（F）、数学、教育工学、国語、社会の順になっている。

表3 研修率



年度別研修率（表4-1・表4-2表4-3・表5）はその年度の研修参加合計数のその年度の教員数（校長を除く）に対する百分率である。

五十年度で、中学校・高等学校のそれが低くなっているのは、交通ストにより中止となった講座があるためである。

小学校の研修率は、わずかながら、年々増加しているが、中学校のそれよりもかなりひらきがある。

高等学校では、毎年一〇パーセント程度で、ほぼ一定している。

三、年度別研修率

表（4-1・4-2・4-3）で

- ☒印は、当時開講していなかったもの
- ☒印は、閉講になったもの
- ☒印は、交通ストのため中止になったもの
- ☒印は、交通ストのため一部中止になったものである。